

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791400031		
法人名	合同会社 らんらん		
事業所名	グループホームらんらん		
所在地	沖縄県国頭郡今帰仁村字崎山128-4		
自己評価作成日	平成31年 3月10日	評価結果市町村受理日	令和 元年 5月 15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoNoCd=4791400031-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階
訪問調査日	平成 31年 3月 29日(金)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症によって自立した生活が困難になった利用者に対して、家庭的な環境のもとで、食事・入浴・排泄等日常生活の中での心身の機能訓練を行うことにより、安心と尊厳のある生活を、利用者がその有する能力に応じ可能な限り自立して営むことが出来るように支援しています。

地域の行事(清掃作業、スポーツ大会等)に積極的に参加し、交流を図っており、最近では、通院等の際に、地域の方から認知症についての相談や、入所の相談を受ける機会が増えており、また、直接、ホームに来られて相談される方もおります。入居者の家族や地域の方からの野菜や果物等の差し入れもいただく機会が増えてきており、地域とのつながりが広がってきているように思います。

ホームの裏の土地をご厚意により無償で貸していただき、無農薬野菜づくりによって採れた野菜がホームの食卓で、利用者に食され、好評を得ております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は開設準備の時期から、区長や地域住民の関心が高く「地域密着型のグループホーム」として理解され設立された。事業所は住居と畑が適度の間隔で続いており、利用者の「一人散歩」も住民の理解とネットワークで楽しいひと時を持つ事が出来ている。又 近くの2車線道路では「電動車椅子利用者」がゆったりと安全に走行している。当事業所の利用者も職員も区や村の行事に積極的に参加し、事業所主催の行事には利用者の「子や孫ひ孫・親戚友人知人」が多数参加し、地域住民との馴染みの関係が継続している。また、無償提供の畑を地域子供会と一緒に利用者や職員が農作業をしたり、利用者の戦争体験や昔話を子供たちに話す機会を作り交流している。利用者から「散歩・ドライブ・花見・海洋博公園・つつじ祭り」などの外出希望があり出来るだけ希望に沿えるよう支援している。外出先で景色や花見をしながら外食よりも事業所の手弁当を希望し楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あなたの想いに気付き」「思いやりの心を持ち」「安心して暮らせる生活」の3つを理念にかかげ、月1回のミーティングで職員が共有できるようにし、復唱している。	理念は設立時、役場職員等のアドバイスを頂き職員が「利用者の思いに気付きやりたい気持ちを大切にします」「その人らしさをもっとうに利用者に沿った個別支援を提供する」「在宅時と同様に家族や地域住民との絆・ふれあいと大切にしたい」と考え掲げている。日常生活支援の中でも理念を意識し、日課のサービスも参加したい利用者には提供し、利用者の生活を尊重している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、行事に積極的に参加している。 (地域の清掃活動やスポーツ大会等) また、ホームでのクリスマス会に、地域に参加の声かけをして、多くの方々が参加されている。	区行事の盆踊り・グランドゴルフ大会・新年会・豊年祭には前列に指定席が提供され老人会主催の芋煮会や婦人会主催のランチ会や役場主催のユンタク会等に参加している。事業所主催のクリスマスには家族や地域住民が50人以上集まり午後2時から6時過ぎまでフラダンス・空手・踊り・カラオケ大会・ビンゴゲームを楽しみ高校生や学童も参加している。又公民館でグループホーム事業や認知症について講和した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加することで、公民館等や通院時に地域の方から「認知症」の相談を受けることがある。ホームへ直接相談に来られる方もある。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員のメンバーには、今帰仁村役場の職員や区長、また、開設に当たって土地を譲っていただいたり、役場等への働きかけにご協力をしていただいた方を地域の代表者として、加わっていただいている。	運営推進会議は2か月1度、利用者、家族、区長、役場職員、事業所の相談役と職員が参加している。入居者状況や事業所の活動報告、外来受診、リスク報告など行っている。委員からは行事の案内や読み聞かせの提案、地域住民からの問い合わせ等の報告がある。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営委員会を開催するにあたり、村の職員が会議へ参加できるよう配慮していただいております。また、開設当初の、利用者が定員に満たなかったところには、ホームの紹介等をしていただいております。現在、定員9名満杯の利用者が入居されている状況である。今後も、ホームの状況を随時連絡し、村の窓口相談に来られる方に、ホームの状況を伝えたり紹介していただけたらという話もいただいている。	村の担当者が運営推進会議に参加し報告や相談をしている。行事や福祉関係事業の案内や村からの要請で「夫からの虐待から保護する」為20日間入所しその後老人保健施設に入所した利用者がある。又村のケアマネ会議等で包括支援センターの職員と連絡調整している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束は行わないという事を、重要事項説明書にも記載しており、利用者に危険が予測される方については、ご家族と相談して、承諾をいただいたうえで、対応を行っている。(ベッドの手すり等)	「身体拘束をしないケア」の研修会を定期的に継続し、一人散歩では見守りを継続していたが「利用者の友人の畑に行く行動パターン」を確認でき携帯電話を使い時間を決めて一人の散歩を楽しむ友人や地域住民も納得している。金銭に関しては事業所が預かり買い物や孫へのお小遣いに対応している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームが利用者にとって安心と安全の場所であることを大切に考えており、利用者とのコミュニケーションを図りながら、利用者の希望に沿った支援ができるように努めている。	利用者の「嫌がること」を理解し、利用者が「楽しい事や遣りたい事」を確認し個別対応するよう支援している。服薬に関しても主治医に相談し食後の服薬を食前投与に変更したり、服薬しにくい粉末や顆粒の薬にはゼリーに包み服薬している。又 虐待防止法や不適切な高齢者虐待の研修を行って周知を図っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホームを設立する前より、権利擁護については学んできたが、今後は、関係者と話し合い活用していきたい。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約に当たっては、利用者様にはホームの見学や試し入所していただき、入所の確認をいただいた後に、重要事項説明書に沿って、利用者やご家族に十分な説明を行い、納得していただいたうえで、契約書にサインをしていただき、入所していただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族には、ご意見箱を常設して、ご意見、ご要望をお聴きしている。 また、運営推進会議には、利用者及びご家族の代表者に参加していただき、ホームの活動状況等の説明やご意見をお聴きする機会を設けている。 利用者が楽しみにされている、外出については、利用者の希望を聴きながら計画を立て実施している。	事業所主催のクリスマスは孫が参加できる午後2時から開始し欲しいとの家族の要望があり午後6時過ぎまで家族地域住民が50人程集まり、舞踊や空手・カラオケ・ビンゴゲームを楽しみ盛況であった。又 利用者家族から「ドライブ外出が楽しい」「お手玉や読み聞かせ・芋ほり」「伊江島に百合の花を見に行きたい」などの要望もあり検討している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングを月に1回以上開き、職員の意見や提案を聞く機会としている。	週1回定期的に職員会議を開催している。司会者は職員が交代で行い、クリスマスの備品購入やおむつ等を保管できる倉庫を設置してほしい等の提案がある。利用者が希望する個別支援の対応を検討し、職員の得意分野を発揮できるよう役割分担している。又職員の資質向上の為に研修や資格取得にも配慮している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の中には障がい者雇用で採用した方(知的障がい)もあり、個々が働きやすい職場をめざしている。 ミーティングで個々の「やりたいこと」の希望を聴き、実施している。	開設時から当事業所で一緒に働きたい職員や開設準備期間からボランティアで手伝っていた職員が継続して就労している。緊急時や希望休にも対応し、個別的な相談に応じて就労しやすい環境の提供を心掛けている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が認知症利用者への関わり方で悩んだ時には、経験豊富な職員がいつでも相談できる状況、環境をつくっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所を立ち上げるにあたり、管理者の研修等の受け入れをしていただいた。 また、支援等についてのアドバイスをいただいている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所にあたっては、家族による入所の希望だけではなく、本人にも施設を直接見ていただき、必要ならば、体験入所も行いながら、入所していただいている。 また、日常生活において、本人の困っていることや不安、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っていることや不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めており、家族には出来るだけ面会に来ていただき、利用者の様子を見ていただき、困っていることや不安なこと、要望等を聞かせていただきたいので、面会に来て下さいということを伝えながら、家族等との信頼関係を築くように努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所契約にあたり、本人と家族等には、要望等について話し合いを持つとともに、面会時等にも、本人や家族の要望等を聞かせていただくことにより、必要としている支援を見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者ができること(洗濯物をたたむ等)を、利用者に手伝っていただいている。 また、利用者の持っている色々な知識等について、職員が、教えていただくという態度で接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、いつでもいいので、面会に来て、利用者の様子を見ていただくことにより、利用者の心の安定を図り、安心して生活できるように、また、要望等を聴かせていただき、サービス向上に努めたいので、是非とも、面会に来て欲しいということは、常にお願している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの方や場所等との関係を大事にし、関係が途切れないように、職員が連絡を取り面会に来ていただいたり、必要ならば職員の送迎により、関係が途切れないように、支援に努めている。	利用者の子や孫ひ孫・親戚友人知人の面会や、村や区や事業所主催の行事に参加し又友人の畑まで散歩し在宅同様の交流が当たり前継続している。又利用者の新たな入所により家族間の新たな交流が生まれている。馴染みの場所は今帰仁城や祖先の拝所などに家族や親族と訪れている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	地域密着型のため、利用者同士が知り合いであることも多く、会話の中で共通の話題等もあるので、そうした機会を捉え、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援が行えるように努める。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所理由としては、本人が入院等により、家族の希望で退所されたケースであり、契約が終了してからも、入院先に面会に行き、本人にとっても喜ばれたことがあったが、必要に応じて・本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意思の把握に努め、困難な場合には、本人や家族と話し合いのうえで本人本位が叶うように努めている。	日常会話や表情等で「外出したい・買い物に行きたい・家族友人に会いたい・居室でゆっくりしたい・民謡を聞きたい聞きたくない」等の様々な思いがあり、利用者それぞれの「思いに沿った」個別支援を心掛け、利用者が好む「沖縄芝居」はビデオで楽しんでいる。言葉で表現できない利用者には態度や仕草等で判断し笑顔や表情を確認し支援している。利用者の希望で個室で話を聞くこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族等にお話を伺いながら、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人との普段の会話の中で、一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画者(ケアマネ)が介護計画を作成し、職員会議等で話し合いを持ち、情報の共有を図りながら、現状に即した介護計画を作成している。	サービス担当者会議は利用者家族と職員及び介護支援専門員が参加し定期的に開催している。利用者は「自分のペースで好きなように暮らしていきたい」家族は「本人らしく編み物や歌や踊りを楽しみ今迄の生活を送ってほしい」等の要望に沿った介護支援計画を作成し承認を得て個別支援している。モニタリングは3か月に1回介護支援専門員が行い、再評価している。又状態変化等には計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子やケアの実践・結果・気づき等について、業務日誌(個人記載)に記入し、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーとして、利用者代表や利用者家族の代表にも出席していただき、ニーズの把握により、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事には積極的に参加し、地域資源を利用して本人が心身の力を発揮し、安全で豊かな暮らしを楽しむことが出来るよう、また、事業所も地域資源の一つとして利用していただけるよう、事業所の行事(クリスマス会等)にも地域の方々に参加していただけるように心がけている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関(今帰仁診療所)への受診や利用者のかかりつけ医への受診を行っている。	入居者全員がかかりつけ医を継続できている。基本的には家族の受診対応としている。ただし、海外、県外、遠方に家族がいる入居者については職員にて対応している。かかりつけ医をはじめとして眼科・皮膚科といった専門外来との連携をとりやすい環境である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には、看護師の配置が無いため、地域の協力医療機関の医師や看護師に相談し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時には、家族とともに、職員も面会等を行い、利用者が安心して治療できるように努めており、病院関係者とも連絡を取り合い情報の共有による関係づくりを行っており、利用者の中には、病院からの紹介で入居した方もいます。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針(看取り)については、家族へは契約時の重要事項説明書にて、説明はしているが、看護婦の配置がないので、緊急の場合には、近隣の医療機関に搬送するしかできないので、その辺を家族には説明し、他の施設への変更も含め、話し合いのうえ方針を決定している。	本人・家族等との話し合いを契約時に行っている。実際の事例として重度化や終末期を迎える入居者はまだいない。医療機関と事前に連携のやりとりをしており、該当する入居者が現れた時に具体的に対応できる環境を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年度、2件の事故(転倒)があり、職員には状況の説明や対応についての報告を実施した。定期的ではないが、職員会議の際に、応急手当や初期対応の話し合いはしている。今後、研修機会を計画していきたい。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、毎月の職員会議の際に計画・実施しているが、利用者が高齢者(認知症の方や車椅子の利用者が多い)のため、頭上報告が中心となっている。 今帰仁村防災マップを掲示し、全職員に周知するようにしている。	年2回(昼間)想定の実践を実施している。開設後最初の訓練に消防職員が参加している。周辺住民と共同で訓練を行っており、災害時への連携の協力体制は整っている。	訓練未経験の職員が夜間時の対応に不安を感じていた。消防職員も初回以降の参加が皆無であるため、今後は全職員へ訓練参加機会を作るとともに、地域住民を巻き込みながら消防職員にも参加を要請し、講評を受けながら訓練の質を上げる工夫が望まれる。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシー保護に努めている。 それぞれの部屋については、利用者のスペースということで、他者が勝手に部屋に入る事は禁止(利用者・職員共に共通認識の下で)している。 また、言葉かけ等についても、配慮している。	居室に立ち入らないで欲しいと希望する入居者には掃除の時だけ許可を得て対応する。家族のことについて聞いて欲しくないといった個々人への配慮に努めている。空間的なプライバシーだけでなく、精神的なプライバシーについても人格を尊重し対応を心がけている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意見箱を設置し、いつでも本人の思いや希望の表明が出来るように努めている。 外出先や食事等の希望については、利用者に聞く機会を持ち、計画の立案や実施をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事時間・就寝等については、本人の意思を大切にしつつ、健康状態等は常に把握し、十分な睡眠の確保ができるようにしながら、本人の希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援しており、本人の希望により、美容院や理容院に送迎している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に準備をするということではできないが、メニューの希望を取り入れた食事を提供するようにしている。 また、外出時には、外食の機会を設け、好みの食事が摂れるようにしている。	クリスマス会等の行事食を入居者に楽しんでもいただくために環境づくり(飾り)に配慮している。 食材購入のための買い物に入居者と一緒に外出する。庭で栽培して収穫した野菜をメニューにとりいれたり、近所からの差し入れも活用するなど、自然な生活が定着している。また、入居者から食事に関する好みや意見を聞き取り、日常の食事メニュー、外出時に好みの食事が摂れるようにしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援を心掛けています。(誤嚥が心配される方には、トロミや、ミキサー食の支援を行っている)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の口腔状態に気をかけ、声掛けや本人の力に応じた口腔ケアの支援を行っている。(義歯の手入れや健康体操等) 利用者の歯科治療は、近隣の歯科医療機関でおこなっている。 沖縄県歯科医師会による、平成30年度歯科検診&口腔ケア指導の申し込みを行ったが、残念ながら、平成30年度については、対応不可との回答であった。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に失敗しても、「大丈夫だから」と伝え、失敗したら、シャワー浴をしていただき、場合によっては職員が洗浄等の支援を行っている。 また、おむつを使用されている方についても、本人の意思により、トイレに行けるように支援をおこなっている。	個別に排泄パターンを把握している。生活リズム、食事など本人と相談しながら支援方法や対応をしていった結果、便秘で困る入居者がいなくなった。おむつ使用については入居者本人の希望で使用されている場合には意志を尊重しつつトイレでの排泄支援を継続して行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入所前から、ほとんどの方が便秘のため、必要な方については、医師と相談の上、服薬を行っている。 また、水分を摂っていただくよう支援を行っているが、利用者の中には、味の付いた飲み物を好み、他の水分を摂りたがらない方もいるので、繰り返しの声掛けにより、水分を摂ってもらうように取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日等は、特に設定しておらず、本人の希望でいつでも入浴できるようにしている。一時期、簡易の浴槽を設置したこともあるが、利用者がシャワーのみで良いとのことで、安全面も考慮して、今は、シャワーのみ使用している。シャワー浴は、職員の入浴介助により、ほとんど毎日実施している。利用者の状態によっては、声掛けのみで、ご自分で入浴され、見守りのみの方もいます。	入居者の希望にそって入浴できる体制を毎日とっている。介助方法については、身体機能を踏まえたうえで入居者本人ができるところ、できないところを聞き取りによる確認をしながら自力で行えるよう配慮しつつ支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の掃除や片付け等については、本人の許可のもと職員が行い、安心して気持ちよく眠れるように支援している。 また、午睡を推奨しており、休息していただけるように支援している。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院は、職員が付き添って行い、薬の受け取りにあたっては、職員が薬の目的等について、医師や薬剤師から話を聞き、薬の管理を含め、服薬の支援を行っている。 ご家族による通院の場合は、ご家族より薬の目的等を引き継いで、薬の保管及び服薬の支援を行っている。	開設時よりこれまで、服薬に関するヒヤリハット及び事故発生がない。職員間での共有ができるよう変更内容などを見える化し、把握に努めている。かかりつけ医と薬に関する相談、やりとりを行える信頼関係づくりが出来ており、気兼ねなく相談ができる。	安全な服薬支援のためにマニュアルを作成し、マニュアルに沿った服薬管理が望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方々は外出を楽しみにされている方が多いので、本人の希望等も聞きながら、外出の機会を設定して、気分転換等の支援をしたい。 また、外出の際には、外食の機会を設けて、嗜好品を食する機会を持つように努める。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子の利用者も多く、本人が外に出たがらない方も多いが、外出を楽しみにされている方も多いため、本人の希望を把握して、外出の機会を設定し、実施している。 また、健康の為に、自ら、ホームの近辺を散歩される方もおり、支援していきたい。	地域資源(公園、公民館、商店など)と連携をとりながら集団での外出、個別の散歩支援を行っている。近場では地域住民の協力もあり見守られながら利用者のみの散歩も実現できている。一人ひとりの希望に沿って安全な外出ができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金については、本人の自己管理で所持していただいている。 ホームでは、5千円を預かって、本人の希望する物の購入や通院等での必要経費を支払っている。 また、外出時に、本人が希望の物を買われる際の経費に充てている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会は、時間設定は設けずに、本人及びご家族の希望で、随時、実施している。 また、ご自身で携帯電話を所持されている方もおり、自由にご家族等と連絡をされている。 ご家族等からの電話等については、本人に取り次ぎをしており、また、本人の希望によっては、職員がご家族に連絡して、面会に来ていただくよう、直接、本人とご家族が電話で話していただくようにしている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて、共用空間に飾りつけ(クリスマスツリー・ひな人形・花等)を行っている。	天井が高く天窓より採光が取りこまれ明るく落ち着いた共有空間である。季節に合わせた飾りつけも、過度にならないようにし家庭的な雰囲気づくりが実践されている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段の過ごし方としては、共用空間での大型テレビ(65型)を見て過ごされているので、放送番組だけではなく、ライブラリーでDVDを借りて、沖縄芝居等を観る機会を設けている。 また、午前10時頃から、カラオケ機器を利用して、体操(ラジオ体操、ゆったり体操、パタカラ等)を行った後に、お茶としている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人が自由に使えること(火器等危険なものの持ち込みを除く)を基本にしており、他の者(他の利用者・職員)が勝手に部屋に入ることを禁止(利用者・職員共通理解)しており、本人が居心地よく過ごせるようにしており、部屋の掃除等についても職員が、本人の許可を得て行っている。	入居者本人のこだわりの家具、衣類が収納されていて自身の自由に過ごせる生活の場として整えられている。前述したように入室を希望されない入居者の方へは掃除のみ立ち入り、事前に入居者本人へ断りを入れるなど個人のプライベートゾーンへの配慮をおこなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが自分の力で行う事(他の利用者に危険が及ぶようなことを除く)が出来ることについては、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるように支援したいと考えています。		

目標達成計画

作成日: 令和元 年 5月 9日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	職員の健康診断が実施できていない (現在は個人負担で実施している)	今年中に健康診断が実施できるように	日程の調整を図り、費用はホームの負担で実施する。	12ヶ月
2	35	災害時の対策の不安 (現在は、ホーム内でのみ実施している)	地域の方との協力体制を具体化していく	・避難訓練を地域の方と一緒に実施する (区長への協力依頼を行う) ・消防訓練の講習会の実施 (消防設備の点検時に、設備の扱い方等の指導を受ける)	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。